

原子力委員会「ご意見を聴く会」

(竹内敬二 朝日新聞論説委員)

【原子力委が「67路線」の修正を打ち出し、国が前面にたって変える】

1【要旨】

日本の核燃料サイクル計画は1967年の原子力利用長期計画でつくられた。「75年にプルサーマル開始、90年ごろに高速増殖炉実用化」(67長計)といった当初の計画は挫折したが、今も同じ線路をスピードを落として進んでいる。

しかし、現実には、原子力委はFBR実用化を主張するものの、電力業界は「とりあえずプルサーマルまで」、資源エネルギー庁は不明、研究者の意見はばらばらという状態にある。

今年はエネルギー長期需給見通しの改定、原子力長計の改定作業開始、自由化における原子力への支援策の議論、六ヶ所再処理工場の運転を決める年。「67体制」の修正をする好機だ。

再処理工場の運転を一時凍結し、時間をかけて多くの齟齬があるサイクル計画全体を見直す作業をすべき。それには原子力委員会が見直し・再議論する点を明示し、国(資源エネルギー庁)を動かし、国がリーダーシップを発揮して、法律面の調整や地元との折衝をしなければならない。

2【日本の原子力の現状をどう見るか】

- ・原子力を4段階に分けて考えると、軽水炉(52基) プルサーマル(なかなか開始できない) 高速増殖炉の開発(将来の課題) 核燃料(FBR)サイクル(実現性が見えない)
- ・ ~ をパッケージにして「イエス、ノー」と考えることをやめる。社会受容度や必要性は異なる。ひとまとめにして推進という姿勢が原子力全体の信頼性を落としている。
- ・日本はすでに大規模な原子力をもつ国だという認識が必要。電力の35%を担う。発電の5割近くの電力会社も複数あり、いくらでも増やせるわけではない。
- ・FBRが林立する核燃料サイクル時代は展望できない。
- ・プルサーマルも、海外再処理した分の消費と、六ヶ所村再処理工場で新たなプルトニウムをつくりだしての計画を分けて考えるべき。
- ・FBRは将来のために技術を継承する意味はあるが、今の時点で「将来かならずエネルギー政策の柱にする(なる)」と考える妥当性はない。

3【コストで評価する】

- ・原子力委員会による「計画のコストを明らかにする」方針を支持。
- ・安全保障からも考える。ただ「日本には資源がない」という定性的な言い方ではなく、資源節約量、他の代替手段なども定量的に考える。
- ・昨年8月に原子力委員会がまとめた「核燃料サイクルについて」には問題がある。「直接処分では天然ウランの0・5%しか利用しない。FBRサイクルではウランの利用効率が理論的には60%程度になり直接処分に比べて100倍以上」としているが、多数回の再処理を繰り返してのサイクルはコスト面からとても展望できず、間違った印象を与える。

4【六カ所再処理工場の運転をいったん凍結する】

- ・電事連は「バックエンドは約40年間で19兆円」という数字を公表した。「制度的な国の後押しが少しあれば、我々はやっていける」という意思表示。ただ、第二再処理工場など未確定な部分が多い。社会としてこれを進めるのがいいかどうかを考える。
六カ所の運転をいったん凍結し、サイクル全体を再評価すべき。
- ・その内容は、「プルサーマルをどうするか」「六カ所をどうするか」「使用済み燃料がプールに満杯になる」「全量再処理方針を維持するか」など。

5【なぜ総合的な見直しができないか】

- ・多くの人がサイクルを何とかしなければと思っているのに、ずるずると時間だけがたつのは、それを議論をする「場」がないから。過去の政策を踏襲するシステムはあっても、立ち止まったり、大きく変えるシステムがない。
- ・原子力委員会、いくつもの審議会があり、主導権の所在が不明。原子力委員会が何かをいっても国全体が動くかどうか分からない。
- ・電力業界にもこうした「あきらめ」があり、六カ所の運転開始が迫る中で流れに任せるしか選択肢がないのが実情ではないか。

6【何が緊急の課題か】

- ・海外再処理分のプルサーマルさえ始まっていない今、六ヶ所工場の運転を急ぐ理由はない。
- ・原発サイトのプールの満杯、再処理工場が動かない場合の地元の反発などが問題になる。地元で「待ってもらう」ことが可能か。
- ・「サイト内貯蔵」や「中間貯蔵」の可能性を検討し、見直しの時間をつくる。

7【具体的な提案／時間をかける】

A案：原子力長計の議論に入る前に原子力委員会が見直すべき点と方向性をかなりはっきりさせる。その間、六ヶ所工場は運転しない。

B案：原子力委員会の下に、地元代表者も含めた少人数の委員会をつくり、時間をかけて複数のシナリオをつくる。

- ・ サイクルに齟齬があるのは時代の流れなので仕方がない。つじつまをあわせるのではなく、「政策に合理性を持たせる努力」が必要。
- ・ これまで通りの形で原子力長計をつくれれば長計は意味を持たなくなる。
- ・ 「国策民営」の意味が不明になっている。サイクルは経済性に加えて「自由化の中で原子力をどう扱うか」という問題が重なり、混乱が深まっている。国の強い関与なしでは打開できない。
- ・ 今は経済性がない政策も何十年か後には合理性をもつかも知れない。その点で「今は決めない」というのも積極的な政策判断になりうる。「止めたり、変えたりする力もない。地元とのしがらみもあるから」と進めるのはさけるべき。
- ・ 原子力の最大の問題は、政治の世界でまともに議論されないこと

(以上)